

## 事務事業評価における総括

部 局 名	教育推進部	記入責任者	遊作 克己
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>教育推進部の業務計画に位置付けた事業は、86 事業のうち 83 事業が S 評価、1 事業が B 評価、指標は達成できなかったが成果はあがったものとして 1 事業を A 評価、成果は今後見込めるとして 1 事業を C 評価としており、重点的に進めていくべき事業は、概ね順調に進捗しています。また、業務計画に位置付けていない事業も概ね S 評価となっており、全体としては順調に事業が進捗しています。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>業務計画に位置付けた事業のうち、教育施設等の再整備の推進は、目標値である方針の 3 月までの策定にはいかなかったため C 評価となったものです。これは、市民討議会での議論や学校関係者を対象としたアンケート調査を実施するなど、幅広く意見をいただく機会を設けて丁寧に作業を進めたためで、29 年度上半期を目途に方針を策定する予定です。特別支援学級増設検討事業は、通級指導教室の増設（29 年度開設）という成果をあげることができましたが、会議の実施回数が目標値に達しないことから A 評価としています。</p> <p>業務計画に位置付けていない事業のうち A 評価となったものには、文化的郷土資料調査事業のように荒天による中止などやむを得ない事情によるものがあります。また、自然誌郷土資料調査事業については、活動内容を（仮称）歴史文化交流館への移転に向けて館内での資料整理に変更したことによるもので、成果はあがっています。</p> <p>また、目標値を達成できた事業も指標として利用状況や参加者数を設定している事業があることから、事業の周知や、利用や参加を促すためのさらなる改善が課題と考えます。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>今後も、第 4 次実施計画や次期総合計画（次期教育基本計画）策定も視野に入れ、事務事業評価結果や市民のニーズ、事業にかかる人工などを踏まえ、事業の見直しを進めます。また、情報共有と連携を深め、事務の効率化や職員の負担軽減を図りながら事業の成果をあげていきます。</p>			